

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和6年1月15日

協議会名：長崎県離島航空路線協議会

評価対象事業名：離島航空路に係る地域公共交通確保維持改善事業（離島航空路運営費等補助事業）

| 補助対象事業者等 | 事業概要 | 前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況 | 事業実施の適切性 | 目標・効果達成状況 | 事業の今後の改善点（特記事項を含む） |
|-----------------|-------------------------------|--|-----------------------|---|---|
| オリエンタルエアブリッジ（株） | 【長崎～奄岐線】 島民の生活路線として1日2往復運航 | 旅行商品造成・販売に向けて旅行会社セールスを実施(主なターゲット：首都圏・大阪・名古屋・北海道)。 シーズン毎にダイヤを見直し、東京・大阪・長崎線との接続を改善。 プロモーション運賃として、28日および60日前までの予約・購入で適用される割引運賃の設定を継続。また、6月・11月にタイムセールを実施。利用促進を図った。 SNS(Instagram・Twitter)を活用イベントやキャンペーン等の情報を発信。 離島への移住や交流人口拡大のため、長崎県と連携し、離島留学補助や離島取材費用助成などのキャンペーンを実施。 | A 計画通り事業は適切に実施された。 | B 国や県などによる旅行支援により観光目的の利用者は一時的に回復したが、支援が終了した現在、再び減少傾向となっている。旅行者の全体数はコロナ禍前の数字に近づいているものの、一過性のものである可能性も否定できず、注視が必要。 目標旅客数(有償) 34,987人 実績(有償) 25,447人 (R5/12未現在) | 今後、奄岐島の人口減少や高齢化に伴う利用者の減少が見込まれるため、首都圏をターゲットとした旅行商品造成の拡充や、SNSによる宣伝活動・運賃戦略などにより交流人口を増やし、安定した運航と路線の維持確保に努める必要がある。 また、引き続き、事業者による費用削減と収益改善、利用者需要喚起対策を進めるとともに、県・市による支援及び奄岐島内の観光資源を活用した観光客誘致等利用促進に取り組む。 |
| | 【長崎～福江線】 島民の生活路線として1日3往復運航 | 旅行商品造成・販売に向けて旅行会社セールスを実施(主なターゲット：首都圏・大阪・名古屋・北海道)。 シーズン毎にダイヤを見直し、東京・大阪・長崎線との接続を改善。 プロモーション運賃として、28日および60日前までの予約・購入で適用される割引運賃の設定を継続。また、6月・11月にタイムセールを実施。利用促進を図った。 SNS(Instagram・Twitter)を活用イベントやキャンペーン等の情報を発信。 離島への移住や交流人口拡大のため、長崎県と連携し、離島留学補助や離島取材費用助成などのキャンペーンを実施。 | A 計画通り事業は適切に実施された。 | A 国や県などによる旅行支援やTVドラマの舞台となった好影響により観光目的の利用者は一時的に回復したが、支援が終了した現在、再び減少傾向となっている。旅行者の全体数はコロナ禍前の数字に近づいているものの、一過性のものである可能性も否定できず、注視が必要。 目標旅客数(有償) 41,394人 実績(有償) 41,616人 (R5/12未現在) | 今後、福江島の人口減少や高齢化に伴う利用者の減少が見込まれるため、首都圏をターゲットとした旅行商品造成の拡充や、SNSによる宣伝活動・運賃戦略などにより交流人口を増やし、安定した運航と路線の維持確保に努める必要がある。 また、引き続き、事業者による費用削減と収益改善、利用者需要喚起対策を進めるとともに、県・市による支援及び奄岐島内の観光資源を活用した観光客誘致等利用促進に取り組む。 |
| | 【長崎～対馬線】 島民の生活路線として1日4往復運航 | 旅行商品造成・販売に向けて旅行会社セールスを実施(主なターゲット：首都圏・大阪・名古屋・北海道)。 シーズン毎にダイヤを見直し、東京・大阪・長崎線との接続を改善。 プロモーション運賃として、28日および60日前までの予約・購入で適用される割引運賃の設定を継続。また、6月・11月にタイムセールを実施。利用促進を図った。 SNS(Instagram・Twitter)を活用イベントやキャンペーン等の情報を発信。 離島への移住や交流人口拡大のため、長崎県と連携し、離島留学補助や離島取材費用助成などのキャンペーンを実施。 | A 計画通り事業は適切に実施された。 | B 国や県などによる旅行支援により観光目的の利用者は一時的に回復したが、支援が終了した現在、再び減少傾向となっている。旅行者の全体数はコロナ禍前の数字に近づいているものの、一過性のものである可能性も否定できず、注視が必要。 目標旅客数(有償) 72,383人 実績(有償) 49,486人 (R5/12未現在) | 今後、対馬島の人口減少や高齢化に伴う利用者の減少が見込まれるため、首都圏をターゲットとした旅行商品造成の拡充や、SNSによる宣伝活動・運賃戦略などにより交流人口を増やし、安定した運航と路線の維持確保に努める必要がある。 また、引き続き、事業者による費用削減と収益改善、利用者需要喚起対策を進めるとともに、県・市による支援及び奄岐島内の観光資源を活用した観光客誘致等利用促進に取り組む。 |